

英知通信

発行
英知大学
兵庫県尼崎市若王寺
2-18-1 (〒661)
TEL (06) 491 - 5083
編集
英知大学広報室

1982. 4. 30

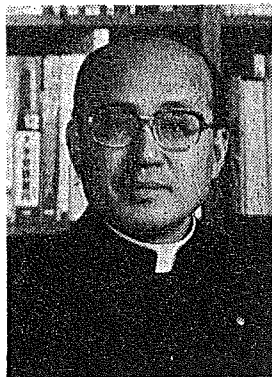
UNIVERSITAS SAPIENTIAE

No.34

入学式式辞

「大学における人間形成」

学 長 傘 木 澄 男



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご父兄の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。本日にここに、神学科9名、英語英文学科10名、イスパニア語イスパニア文学科47名、及びフランス語フランス文学科50名、計208名の新生を迎え、第二十回英知大学入学式を挙行させていただきます。これは、私共教職員、在学生並びに本学の関係者一同にとりまして、まことに大きな喜びであります。新入生の皆さん、英知大学は皆さんを心から歓迎いたします。

皆さんは今日から英知大学の学生となられたのでありますが、それには一体どのような意義があるのでしょうか。皆さんは、きっと外国語の勉強や就職のことやあるいはレジャーの楽しみのことなどを考えておられることでしょう。しかし、それだけではなく、皆さんの心の中には別のもっと真剣な、もっと高尚な、ある願望が秘められているに違いありません。それは「自分というものを

もっと拡大したい。もっとスケールの大きなどっしりした人間になりたい。ならなければならない。そしてそれをこの大学生活を通して把みたい、実現したい。—そういう願望です。つまり人間形成、人格形成という事です。確かに大学は真理探究と人間形成の場です。というよりむしろ人間形成を通して人間形成を目ざす所です。人間形成こそ大学において一番大切なものであります。専門知識は大学卒業後でも、一生かけて獲得していくことができます。またそうして行かねばなりません。人間形成さえ出来ているならば、一生の間その上にいくだけでも良いものを積み上げていくことができるのです。根がしっかりと大地に張れば木は大木に成長し、どんな嵐や早ばつにも耐えて、生き抜くことができます。大学はそのように人間の根を、基礎をつくり、それを完成させる所です。そういう大切な時なのです。

私は本日、この人間形成という点について日頃考えておりますことをお話しして、皆さんの自覚と決心を促がしたいと思えます。人間形成と云いまして、幼児期から高校卒業までの家庭や学校での躾や人格教育のことは省いて、大学における人間形成について考えてみたいのであります。大学における人間形成とはどういうことでしょうか。その意味内容は、次のような点にまとめるところができるでしょう。

学問によって視野を広める

大学でなされる人間形成の第一の事柄は勉学です。学問を通して視野を広めることです。人間は学問によって物事や社会の本質を把握し、自然と人間、文化・社会、国家と世界に対する理解と洞察を深めていくことができます。このようにして広い視野で物を見、考える力を身につけることが何よりも大切であります。今日、私達日本人の反省し、改善しなければならぬ一番緊急な事は日本人の閉鎖性ということではないでしょうか。日本人はとかく内輪のことだけに目を向け、狭い仲間同士で結束することには長けていますが、互いに人間同士として世界中のあらゆる人々と連帯していくということが仲間々出来ません。今後ますます流動化し、緊密化していく世界の舞台上に進出して国際人としてやっといかねばならない私達日本人にはいつまでも狭い島国根性、精神的鎖国状態に留まっていることは許されません。大学生活の第一の目標は勉学にあり、これによって広い視野を身につけることにあるという事をしっかりと自覚して、これからの四年間どうにかまじめに、真剣に勉学に励んで下さい。

第二には、自分の頭を使って自分で考え、理解する力、しっかりとした思考力と判断力を養うことでもあります。人に云われただけでは、たとえまじめで誠実な人であっても、発展がなれません。自分に社会に役立つ人間は価値観と見、判断する科学的的精神を客観的に見、判断する科学的的精神

と、真偽・善悪を識別する批判的精神を身につけることが必要です。それによって、「自分はこの社会の中でどういう位置を占め、どういう役割を持っているのか。何を如何にすべきか」ということを、的確に把握していける人にならなければなりません。これからのますます激動し価値観の混迷する社会にありましては、一人ひとりがしっかりと自分の考えで判断し、決断していくことが求められます。ところでこういう思考力や判断力はどういうように養われるのでしょうか。今日の社会一般の、特に若者の傾向は「読まない書かない、考えない」の三無主義だと云われます。視聴覚の手段が大変進歩し、映像や音によって沢山の情報が流れ込んで来ます。しかし視聴覚のメディアが情報や知識を得る手段としてどんなに秀れた、有用なものであっても、人間として最も大切な知的能力である思考力と判断力を養うものは「読み、かつ書く」という文字の訓練であります。その点、漫画やテレビのイメージで育った今日の世代は、文字、活字を最大の苦手として、活字離れ、本ばなれの傾向が目立っています。皆さんはどうか大学に在学中でできるだけ沢山の書物に親しみ、また自分の考えを表現できるように書く訓練もして、この大切な思考力、自分で考え、研究する能力を養って下さい。

自主性を身につける

大学における人間形成の第三の点は主体的、自主的な態度を身につけることでもあります。主体性とは自分の意志と責任において行動することです。学生として、また家族や社会の一員としてどのように行動するかが自分の責任を果たす道であるかどうかのように自分の務めを行うことが皆んなの幸せ、文化の発展に役立つ

道であるかを考え、そういう生き方行動の中に自分の存在の意味を見いだしていく態度であります。高校卒業までは、なすべき事を親や学校から云われて、それを実行することだけが求められ、勉強も自主的に研究するというより「教わる」ということでありました。それでよかったです。しかし大学においては最早受身ではなく、勉強も生活も全て各人の自主性と責任に委ねられます。勉強も「教わる」のではなく、「学ぶ」のです。教師はそれを援助するだけです。全てにおいて皆さんは自由ですが、それは無規律・無軌道ということではなく、これからは自ら規律を自分自身に科して、自律心によってやっていくのです。こうした訓練は将来実社会に出たときの最も大切な準備となるのです。今の日本は平和で豊かな社会です。そのために、主体性を欠いた人間、これを今日「モラトリアム人間」などと呼んでいますが、こういう自分のことしか考えない個性未成熟人間が大変多くなっています。しかし皆さんが将来実社会で活躍される頃は、日本も難問ばかりの世の中になっていくでしょう。そういう中で強く生き残っていく人にならなければなりません。どうか皆さんは今しっかりとした目的意識を持って下さい。何のために大学に入ったのか、入学した以上何を目標にしていくのか、それを自分でよく考えて、今日からその目標に向かって始めて下さい。そうでなければ四年間の大学生活は何の裏りもない、無駄なものになってしまうでしょう。

思いやりの心

以上、知性と意志の面から見てまいりましたが、次に人間形成の第四の点として挙げたいのは、人に対する配慮、思いやりの心であります。

他者を尊重し、愛する心、これは現代社会において特に強調され、要望されているものです。生きていく全体的なものとの心の交流、美しいものを愛し、大切に作る人間的感性の豊かさ、これは人間の幸福の土台である相互理解と協調性の為に必要不可欠なものであります。他者に心を開き、人々との出会いを通して自己を確立していくところに、人間本来の姿があります。他者を理解し、思いやる心がなければ、他人の人間性が根本的な欠陥があると云わねばなりません。幸い本学は小規模の学園で、クラスも比較的少人数編成ですから、自然に和やかな家庭的な雰囲気が生まれていて、学生同士、また学生と先生方の交流は割合容易です。しかし友人をつくり、交流を持つためにはそれだけでは足りません。一番大切なことは人に対する理解と配慮、思いやりと愛の心です。どうか本学におられる間にこの精神をしっかりと自分のものにして下さい。

さて第五に、そして最後に人間形成に大切なことは身体の健康ということであり、これまで申し述べました精神の健康だけではなく、人間には身体の健康も不可欠で、健康の維持・増進は、人間形成の基礎であります。即ち生涯に亘って広い視野、しっかりとした思考力、主体的な行動力、そして豊かな感受性を養っていく、基盤となるものであります。そのため大学におきましても保健体育は必修科目として重視されているわけであり、皆さんはそうした正視の科目だけでなく、課外活動のクラブに入るとか、あるいは友達とスポーツを楽しむとか、大学生活の間にいろいろな方法で身体を健康にするように心掛け、将来有能な

社会人として、また健康な母親として社会に貢献できる人になって頂きたいと私は願っています。

宗教と人間形成

さて以上、五つの点から大学における人間形成について申し述べたわけであり、人間形成はこうした知覚と身体との健全な発達だけでなく、一人一人の人間に必要不可欠な次元があります。それは宗教即ち神との関係の次元です。本学の教育理念はキリスト教の人間観に基づくものであります。それは人間を「神の似姿」として創られた存在であり、「神との一致」という究極の目標へと開かれ、この自然本性の枠を打ち破って限りなく自己超越を遂げ、成長・発展していくよう呼ばれている存在」と見ているのであります。この人間像のもとに人間形成ということを追求めていくところにカトリック大学としての本学の理想があります。皆さんは英知大学の名称である「英知」という言葉の意味をもうご存知と思ひます。英知、ラテン語でサビエンチアとは聖書に出てくる言葉で「人生において起こる一つひとつの問題に、最も賢明な、正しい解決を与え、人生を立派に生きていくために思慮深い、的確な行動をとることのできる能力」のことです。「英知の人」とは単なる知識人ではなく、深い知識と教養をもって、正義と愛に基づいた良い生活を送ろうとする十分に成熟した人のことでもあります。そして私共は、こうした真の知恵、英知は、究極的には「信仰によって神から与えられる知恵」であり、神の御子イエス・キリストこそこの神の英知そのものであると考えております。英知大学はこの英知を人間形成の究極の理想としている大学であります。そしてここに私は、皆

さんが本学に入学されたことの重大な意義があることを強調したいのであります。科学技術の進歩は人類にかつてない繁栄をもたらしました。しかし繁栄はその陰で、様々な社会的混乱、自然環境の破壊、そして最も不幸なことに人間の精神の荒廃を惹き起こしつつあります。人類はその生存そのものを脅かされているのであります。世界に、国内に、個人に、明日は何が起るか分らないような現実の事態であります。このような時に私達に一番必要とされるのは、生きることに意味を問ひ、あくまでも不変で、絶対的なものを求めていく態度であります。皆さんは本学において授業科目の勉強や、いろいろな行事や、人々との交流の中で、キリスト教の立場と対面する機会が多いことでしょう。それは皆さん一人ひとりにとり、キリスト教との、またイエス・キリストという方との出会いの貴重な機会であり、皆さんはどうかキリスト教の立場、その価値観からの問い掛けをまじめに受け止めて、しっかりと自分自身の人生観・価値観を打ち建てていくべきだと思います。

今日大学進学率は確かに高くなりましたが、なお高校卒業生の大多数が現状です。四年制の大学へ進学できた皆さんはまことに恵まれていると云わねばなりません。皆さんはどうかこの特権を無駄にしないようにご家族と社会に対する責任を果たしその期待に応えて人間形成に励み、充実した大学生活を送られますよう

に私共は心から祈り、期待しております。これもちまして式辞とさせていただきます。

入学式

祝 辞

後援会会長 東 功

桜花爛漫と咲き競う今日の佳き日、激しい受験勉強を勝ち抜かれましての入学式、誠に御目出度うございます。一言無辞を述べまして祝辞に代えさせていただきます。入学案内で既にご存知の通り当大学はカトリックの宗教的理念に基づき人格の陶冶に重点を置き、傘木学長はじめ優れた多数の先生方と僅か千名内外の学生が尊敬し、信頼し合って学問に勤しんでいく塾といった方が相応しい程今は珍らしいコンパクトな大学であります。創立後漸やく二十年ですが施設も十分に整備されており、勉学には最高の環境であると思ひます。

さて、教育本来の目的は、一、学問を通じての人間形成、自立的精神の養成(持っている知識を総合的に生かし乍ら独力で発掘し、独自の解決策を見つけて出す姿勢と能力を養う)並びに、二、個人の才能の開発(人間として与えられた自分の才能を自分の努力によって発展させる)にあり、この目的に向って励むところが大学であります。

日本の大学生の数は四年制、短大合せて百八十余万人、二十年前の三倍に増えています。数の増加は質の低下に繋がったといわれ誠に残念でございます。ある私立大学の外国人教授は現代大学生像を分析して「日本人学生が真剣に勉強するのは入学試験と入社試験の時だけ、間にはさまった四年間のはんびり遊ぶ期間だと思っているのではなか、その割に



講義にはよく出席します。でも目的は、将来の就職のため「優」の数を揃える事にある様です。だから教室で私に討論を挑む学生には滅多にお目にかかれませんが、「日本では親も見ています。事実、非常に子供っぽい、何を学びに大学に来ているのか理解してない学生が多過ぎます。アメリカでは大学生は立派な社会人として扱われています。」この様に申しておられます。よく耳にするのですが、近頃は学問をしたい人が大学に行くのではなく、親の夢を果すために遊びに行くプレゾンになっていたり、又学資を稼ぐために働き乍ら学間に精を出すのではなく遊ぶ資金を稼ぎに職業につく「学生業」についている学生が少くありません。そのため昔「学士様」今「菜士様」とさへ言われています。

入学した事で目的を達したと錯覚して自己鍛錬を忘れ、一、何となく四年間を過ごす「モトラリアム人間」二、皆が行くから行くという「無目的附和随行人間」三、漫画を愛読し、麻雀屋で時間を過ごし夏はサーフィン、冬はスキーにうつつを抜かず「レジャー人間」が多数を占めているのは嘆かわしい事でございます。貴重な四年間を学問は勿論のこと、文化研究、スポーツ等の心身鍛錬に精を出し、遊び半分子供気半分で学生生活を無為に過す様な事がない様激励として有意義に、且つ英知大学の建学精神に則った個性豊かな人間になられる事をお祈り申し上げます。



昭和五十七年度入学式

春 新入生を迎えて

事業として学長、教授方の講演とその後で先生方のご出席をお願いして会員相互の親睦会が年に二、三回ございませう。学園の醸し出すカトリック精神の厳かさとの和やかさの雰囲気の中でこの楽しい会合でございます。ご両親方に万障お繰合せご参加下さる様ご伝言お願い申し上げます。最後に皆様方の御健康をお祈りして結びと致します。ご機嫌宜敷く。

新納晃重氏(同窓会)祝辞(要旨)
高校までは義務教育に近い考え方で過してきてはよかったが、大学で学ぶという事はまた違った意味がある。まず受身の勉強ではなく能動的な勉強態度、即ち学問への自発的な取り組みが必要。人生とは何か、真理とは何かを追究し、諸先生方と大いに語らい、答えを自分のものにしてほしい。英知大学は学生数が少く、家庭的雰囲気満ちており、勉学には大へん恵まれた環境だ。大学に愛情を持ち、自分達の手でこの大学を発展させるといふ自覚と責任を持って、充実した四年間を過してほしい。詩篇の私の好きな一節を贈りたい。「涙のうちに種まく人は喜びのうちに刈り取る。種を手に涙を流して出て行く人は束を抱え喜びにあふれて帰ってくる。」

桜もほころび始めた四月五日(月)午前十時から、昭和五十七年度入学式が二百四十八名の新入生を迎えて本学講堂で挙行された。

時おり青空もみえる花曇りの当日式は本学混声合唱団の聖歌によって厳粛に始められた。緊張した雰囲気の中で神学科九名、英語英文学科百四十二名、西語西文学科四十七名、仏語仏文学科五十名の入学者の指名が行われた。傘木学長の式辞(別掲)に続いて来賓の東後援会会長(別掲)が、次いで新納晃重氏(別掲)が同窓会会長代理として祝辞を述べられた。式終了後クラスごとの記念撮影が行われ、このあと新入生はポプラ並木道に待機した課外活動団体の学生達から、歓迎と各クラブへの熱心な勧誘を受けた。

午後一時から傘木学長の講話があり、「オリエンテーションとは、正しい方向づけ」を意味し、入学したらずまずオリエンテーションによって正しい方向を定めて出発する。人間は大学にせよ、就職にせよ、どこかに決まると、ほかの所の方がよかつたのではないかと多かれ少なかれ迷いが生じるものだが、そういう迷いは捨てて、ここを与えられた貴重な出会いとして受け入れることが大切だ。今日から希望と自信を持って生活してほしい。人間はミクロコスモス(小宇宙)といわれるように一人ひとり沢山の宝を持っている。英知大生としての誇りを目標に向って確信をもって歩む自分自身に対する誇りを重視したカリキュラムのため、コツコツ勉強することが不可欠で、卒業はた易くはない。など新入生への期待と激励、学生生活全般についての説明が約四十五分間語られた。次いで学科別紹介のあと、アドバイザー制に基づくグループ分けが行わ

れ、新入生はそれぞれのアドバイザーとミーティングを行った。翌六日から各種のオリエンテーション(別掲)が五日間にわたって行われ、新入生は希望にみちて大学生生活へのスタートを切った。

昭和五十七年度

入学試験状況

昭和五十七年度入学試験は、推薦入学(五十六年十二月二、三、四日)試験入学(五十七年二月十日)の二回実施した。入学試験の結果合格者の内訳は次の通り。

競争率	卒業年比 %		男女比 %			
	推薦	試験	本年卒	過年卒	男	女
英文学科	1.93	2.95	71	29	75	25
西文学科	2.00	2.75	72	28	77	23
仏文学科	1.84	2.94	64	36	64	36
合計	2.49	2.40				

昭和五十七年度入学式出身高校
仁川学院、浪速、北陽、成器、鈴蘭台、上宮、箕面自由学園、大阪、三田学園、育英、金岡、羽曳野、初芝東灘、舞子、赤塚山、報徳学園、百合学院、藤井寺、泉大津、佐野、大正、盾津、山本、南、渋谷、豊島

東、大和川、大鉄、被昇天、啓光学園、大阪学院、大阪信愛、住吉学園、大阪商業、川西明峰、須磨東、飾磨神戸北、武庫庄、市立須磨、神戸海星、私立神港、滝川、愛徳学園、新宮、阿倍野、布施北、花園、東淀川泉尾、門真西、交野、北淀、牧野、港、長野、長尾、野崎、島上、高槻南、高石、扇町、八尾東、茨木西池島、美原、箕面東、西淀川、堺東堺西、島本、吹田、西商業、城星学園、近大附属、明浄学院、追手門大手前、大工大附属、清風、相愛、高槻、箕面学園、桃山学院、浪商、大電通大附属、大阪女子学園、大産大附属、大商大界、P・L学園、清教学園、摂陵、樟蔭東、有馬、猪名川伊丹、伊丹北、三木東、西宮今津、西宮北、西宮南、宝塚、市尼崎、尼崎東、兵庫商業、神戸商業、市西宮

神学科	受験者数			合格者数			入学者数		
	推薦	試験	計	推薦	試験	計	推薦	試験	計
男女計	3	5	8	3	1	4	3	1	4
男女計	2	3	5	2	3	5	2	3	5
男女計	5	8	13	5	4	9	5	4	9
英文学科	121	226	347	56	60	116	54	52	106
西文学科	33	63	96	24	38	62	23	13	36
合計	154	289	443	80	98	178	77	65	142
西文学科	42	63	105	19	18	37	18	18	36
男女計	8	14	22	6	10	16	6	5	11
男女計	50	77	127	25	28	53	24	23	47
仏文学科	28	81	109	13	19	32	13	19	32
男女計	7	16	23	6	14	20	6	12	18
男女計	35	97	132	19	33	52	19	31	50
合計	194	375	569	91	98	189	88	90	178
男女計	50	96	146	38	65	103	37	33	70
合計	244	471	715	129	163	292	125	123	248

明石、芦屋南、姫路別所、姫路東、出石、神戸甲北、三木、市立神港、啓明女学院、神戸山手、親和、夙川学院、成徳学院、東洋大姫路、鴨沂洛北、日吉丘、紫野、東山、洛南、峰山、華頂、聖母学院、田辺、向陽熊野、和歌山信愛、水口、奈良育英

帝塚山、サレジオ、聖霊、北陸、上田東、佐久間、雙葉、倉敷中央、新見北、関西、音戸、崇徳、東城、防府商業、徳山商業、萩光塩、鳥取東八頭、松徳女学院、松山南、高知東日田、長崎海星、加治木、徳之島、那覇、大学検定。

新入生オリエンテーション

学生部長 松 本 信 愛



今年度のオリエンテーションでは、年と比べて特に変わったところは、アドバイザー制の担当者との件と、教養ガイダンスの導入、および宗教主事室と図書館のオリエンテーションの二分化である。

アドバイザー制は、原則として一年次生を対象に授業を担当しておられる先生方に限り、他の先生方は、それぞれ二年次生以上のクラスを担当していただいた。(アドバイザーおよびクラス担任表は学生要覧の最後の頁に掲載してある。)そのために一人のアドバイザーが十人程の学生を担当しなければならぬが、お互にクラスで顔を合わせるので連絡が

取り易い等の利点があるはずである。

今年、新しく取り入れられた教養ガイダンスでは、新入生の主たる受講科目である教養課程に関する説明がなされ、続いて出席されていた教養課程担当の先生方が一言ずつ話された。

図書館のオリエンテーションでは説明の後実際に図書館を見学するため学生を約半分に分割して説明を行なった。同様に、宗教主事室のオリエンテーションでも一般的説明の後、グループに分けてチャペルで瞑想の時間が持たれた。

こうして新入生は入学式の日に学長、学科長および各先生方の話しを聞き、さらにアドバイザーのもとで最初のミーティングを行ない、翌日から教務課、学生課、教養課程、学生部、宗教主事室、図書館、職業指導課、学生会のオリエンテーションを受け、その週のうちに履修登録と教科書の購入を済ませ、次の月曜日からの授業に備えたのである。

勿論一週間だけのオリエンテーションですぐに英知大学の精神を汲み取る訳にはいかないであろうが、その何分の一でも吸収して早く大学になじんでほしいものである。

アメリカ語学研修旅行

姉妹校ローラス大に同行して

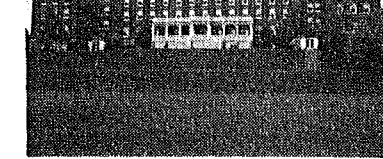
土 田 裕 造
(英語英文学科助教)

アメリカに何十年ぶりかの大寒波が襲ったあと我々は上陸した。西海岸のばか陽気にくらべ、東部のなんと寒いことよ。シカゴからデビュークまでの三時間半のバスの窓から見える風景、それはいかにもアメリカらしい大平原の広がる雄大なものであったが、夏ならさしずめとうもろこしの海であるところが白一色の銀世界であった。ぐったり疲れて眠りこんでいる学生たちを叩き起こしてローラスへ着くと、そこに待ち構えていたものは外気の冷さとは正反対の暖かい大学側の歓迎であった。大学本館奥にあるラウンジへ行くと、そこにはすでにホストファミリーが勢揃いしていた。この度のホームステイの家探しからカリキュラムの作成まで精力的に尽力して下さったウイティン先生、教務担当副学長バスター神父の顔も見える。要領よく無駄のない短いオリエンテーションのあと、学生たちはそれぞれの家族といっしょに散っていった。

週末を各家庭で過ごした学生たちが朝の冷気を肌にかけて、さんさんごごローラスへ集って来た。初対面の家庭で英語と悪戦苦闘を続けて三日ぶりに日本語が話せる喜びが皆の顔ににじみ出していた。しかしそれも東の間、月曜第一時限の講義が始まった。心理学の先生によるボデーランゲジについてであった。とても面白い授業なのだが学生の語学力をやや超えていて、あまりついていっていないことが私にもわかったので、ときどき中断させてもらって日本語で解説を入れた。この初講義のあと私

はローラスを離れ、アメリカ各地を廻ったので、その後どうなったのかよくわからない。最終日にローラスに戻って皆にきいてみると、学生たちはバラエティに富んだ二週間の講義をはじめ、工場、修道院等の見学それに新聞、ラジオ、テレビ出演にいたるまで体当りでこなしたようである。別れの日、ローラスの同じラウンジで展開された風景は二週間前とはあまりにも対照的であった。あの時学生たちは疲労のためか、言葉の不安か、せつなく出迎えてくれたホストファミリーに笑顔で応える余裕はなく、どの顔もひきつっていた。しかし今、貴重な体験をつんだ彼らの顔は満足そうであり、家族との別れを惜しむ彼らの目からあふれ出る涙は、貧しい語学力では言い尽くせない多くのことを物語っていた。

最後に、今後のため省りみると、これまで断続的、断続的に行なってきたイギリス、フランス、スペインにおける語学研修とはかなり異質なものであるのに、従来どおり旅行社がまかせにした部分が多くあったことが残念な点としてあげられる。ローラスは姉妹校関係の英知大学からはじめて学生が送られて来るという点で、大はりきりで、しかもアメリカ人特有の他国人に対する親切心で



デビュークは、私達の事が二つのテレビ局、二つのラジオ局、三つの新聞で取り上げられたぐらい、事件のない平和な街だった。「何年ぐらいい、英語の勉強をしているのか？」と聞かれた時は、恥ずかしくて一瞬絶句。

学生の八割から九割がカトリックだというローラス大学で、笑顔の素敵なバスター神父様といっしょに、カトリックである私を待っていて下さったホストファミリーは、ユダヤ教一家ノ夜遅くまで、喜んで私の下手な英語の相手をして下さったバスターとシーラ。私もいっしょにバイオリンを弾けるように、と先生から楽器を借りておいてくれた八才のジョシュア。お人形よりも可愛いらしかった四才のレイチェル。寝る前の子供達に、シーラに代わって本を読んでもらった時には、ジョシュアも横からいっしょにのぞきこんで、私の知らない言葉を、得意になって教えてくれた。

スプリング・イン・ローラス
(英語英文学科四回生)

小 西 裕 美

私達の為の特別クラスでは、アメリカのいろいろな面について、それぞれの先生方がお話しして下さいました。「せっかくならホスト・ファミリーに応募したのに、アメリカ行きを取り消した学生が多くて採用取り消しになり、とても残念だ。」と言って下さった先生もいらした。プログラムには、たくさんのツアーも組まれていて、市内の農場・工場・修道院などへ、ドクター・ウィティンの豪快な運転で連れて頂いた。私達は皆、後ろの席で、身も心も弾んでいた。嬉しかったのは最初にそれぞれに一人ずつローラスの学生を紹介して下さったことだ。私も私のアンを通じて、いろいろな人と知り合う機会アメリカ式(?)に遊ぶ機会を本当に多く与えられた。

ヨーロッパ
語学研修旅行

英国での二週間

(英語英文学科四回生)

安田 幹 男

アンの英文学の授業にもいっしょに出席してもらい、神父様と授業の前後にウィングをしたり、私達のうち七人とローラスの学生十人程とでローラス・スケートに行ったりもした。その帰り、車の中で隣の学生が素適な声で賛美歌を歌い出し、「アーメン」で終わったあと、不思議そうにしていた私に「彼の運転はひどいからねえ。」と言った。
ほかに素晴らしいごミサに出たこと、小学校や裁判所、牛の往診にまで連れて頂いたことなど、シリリズムものになりそうな程、たくさんの楽しい思い出が持てたことを本当に感謝している。
ローラスは、まだまだ雪が多く、寒い冬だったが、私は、身も心もあちこちに弾んでいた。



二月十九日、日本を離れてヒースロイ空港へ着いた時から、英国を肌で感じる事ができた。重々しい歴史を感じさせた石造りの街、またそれを一層ひきたせる独特の低くたれさがった灰色の空。不安と期待につつま

まれて最初の昼食をすませ、ロンドン市内観光を楽しみ、一路ヘイスティングへ向かった。そのバスの中でこれから過ごす生活に対して再び不安と期待につつまれながら、重いトラソクを持って、ステイする家のドアのベルを押すまで、とても長く感じられた。それからの生活は、昼間スー先生と勉強(?)したり、町を歩き廻ったり、週末には一泊旅行をしたりし、そうした中で数多くの失敗もした。例えば、バスを乗り違えたり、迷子になったり、食事に気をとられて全員授業に遅れたりして、必死で生活していたような気がする。家庭の中では、慣れない英語を駆使して話し、また家庭の人々も一所懸命交き合ってくれて、とても楽しいものであった。最初は英国人は大変と



つづきにくかったが、一度話をするようになるのと、とても親切で、いい友だちになった。ひょんなきっかけで隣の十六才の青年と友達になり、家に遊びに行ったり、一緒に楽器を練習したり、パブに飲みに行ったり、そこで演奏したりもした。そうこうしているうちに日は過ぎ、家族とのつらい別れの日が来て、名残りを惜しみながらロンドンへ出発した。この短かい二週間はの上なく貴重な体験であった。海外語学研修はぜひ続けていって欲しいと思う。

憧れの地を訪ねて

(仏語仏文学科四回生)

渋谷 久美子

三週間にわたる語学研修を終えた今、私は満足感でいっぱいである。これまで「好きだから」という理由からのみフランス語を勉強してきた私にとって、今回のフランス滞在が、より今後の自分自身への励みとなった。

フランスでのホーム・ステイが可能になったのは今回が初めてであるというところが、まず我々仏文科の学生にとって幸運であった。他国の独特な風習というものは、家庭生活においてこそ見いだせるものであり、たとえ長期間にわたって暮らすことが出来ても、ホテル住まいであったなら、その印象もさ程深くは残らなかつたであろうから。
さて、この度初めて日本の地を離れた私が、兎に角「海外へ出た」と実感させられた第一要因は、何と言っても、「時差」である。
日本へ帰国後一週間程、私の生活は朝晩が逆になどという。「実は今時差ボケで;」などと私が言ったところ、周囲の者は本気にはせずに「キザなこと、言わないでヨ。」とやり返されるだけであった。
しかし日本とフランスの間には事実九時間の時差があるのだ。そしてその時差を飛び越えた所にも、同じように人々がせわしく暮らしている。それぞれ異なる文化圏の中で。



ホーム・ステイ中に、日本の行事である『ひな祭』、それに関連した『五人囃子』などの説明をするのにとても苦労した。これからは、「好きだから」ではなく、「必要だから」、もっとフランス語の勉強に励みたい。

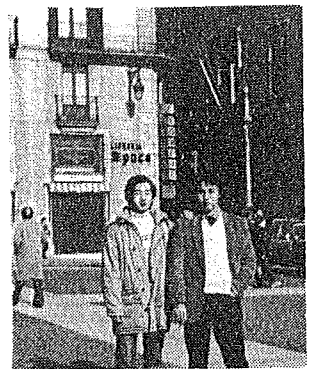
エスト・エス・

バルセロナ

(西語西文学科四回生)

松尾 和彦

飛行機を降りると、夜のバルセロナの町に向かって、タクシーに乗せられて走っていた。次の朝まで眠りたいなと思つたが、三人ともそれぞれ



月曜日からは語学学校のような所へ行き、昼からは学校の友人らと食事や買い物に行った。ある日語学学校の友人、先生、十五人ですぎやきを食べに行った。ハンの使い方はめちゃくちゃ、言葉はイタリア語、スペイン語、英語の混合で、日本語は使えないという悲惨な状態で日本食をいただいた。その後、先生や友人にいろいろな所へ連れていってもらえるようになったのも、この時の経験のおかげだと思っている。

私のホームの主人は銀行員で、日本についてスペイン語で説明させられるのはまいった。久野君のホームは、主人は失業者、奥さんは教員という、変わった家庭だった。スペインの生活に慣れてくると、やがてスペインに住みたいと思うようになって、物価の安さ、陽気な人々、遊びの主体の生活など、人間らしい生活のできる場所であった。特に後でフランスやイギリスへ行つて、そのことを思った。またチャンスがあればもう一度ぜひ行って見たい国だ。それでは、スペインでお世話になった人々に、「グラッシャス・アディオス」。

英知の今日、明日

英語英文学科講師

芝 垣 哲 夫



私は今まで非常勤として本学に来ておりましたが、今年度から専任となった立場より思い浮ぶ幾つかの点について述べさせていただきます。

先ず始めに、本学の学生の学問への姿勢について。今までの経験から申しますと、クラスの四分の三ぐらいの学生は真面目で良く勉強します。しかし残りの四分の一の学生はそれほど勉強に興味がないとみえて授業中大変苦しんでいるようです。大学があくまで、出来る限りの高いレベルの学問を指向する限り、その目標を達せんがための一定水準のレベルがクラスに要求されてきます。今は残念ながら、僅か四分の一の学生のために、教員にとっても、勉強熱心な学生にとっても、勉強の場が崩されていると言えてしまいます。

この問題を解決するには、入学時での学生の選考にも問題はあるかも知れませんが、先ず、今我々に出来ることは、一・二年次における基礎段階での学生の学力をみっちり鍛えることだと思います。その方法の一つとして、英文学科を例にとれば一・二年次の英作文、英文法、英文講読等の科目において、共通の教材共通の試験を行うことです。そのことによつて、次年度からの専門的分野の授業に耐えられるような学生を選んで行くことではないかと思ひます。

このような点は既に諸先生方がお

考えになった点でありましょうし、カリキュラム、その他の面でも問題もあると思ひますが、諸先生方の御指導を得て、何が最も良いかを試行錯誤して行きたいと考えております。

英知は最早、黙している時ではありません。私達で出来る事から行動に移して参りましょう。浅学、若輩の小学生、何とぞよろしく御指導下さい。

自己を生きる

就職課程講師 金 貴 禮



人間如何に生きるか、存在するかどうか、存在するとは、私達一人ひとりの課題であります。社会心理学者エーリッヒ・フロムは、「To Have or To Be」(邦訳「生きるということ」)の中で獲得主義的な現代産業社会を批判し、人間にとって大切なことは「持つこと Having」でなく、「あること Being」であると言っております。人間の価値は何を所有しているかではなく、如何なる人間であるかによつて決まるといふのです。学生の皆さんは自分を如何に在りたいと望みますか。私達の人生、各人が自己を生かしていくものです。「自己を生きる」には自発性と主体性が要求されます。自分から何かをやらうという自発性は喜びを生むでしょう。主体性のないところにどうして自己を生きることが出来るでしょうか。自発性と主体性はその人を豊かにするものです。

幸い大学は学問を通じての人間形成の場であります。自己を豊かに成長させる機会に恵まれている学生の皆さん、今一度自分自身を見つめて下さい。あなたは学生生活を如何に充実させようとしていますか。自分を力いっぱい出し切っていますか。知っていますか、安易な方法・楽な方法では、あなたの中にある可能性を十分に引き出せないことを、また不断的の努力が希望へと繋がることを。如何に自己を生かせるのか、存在させるのかはあなた自身に関わっているのです。精いっぱい自己を生きて、貴重な青春を無駄にせず将来に備えて下さい。自己を生きるために自発性と主体性を自分のものにして下さい。私も共同体のひとりとして皆さんと共に学び・考え・応えていきたいと思ひます。

英知大学に入学して

英語英文学科一回生

伊 藤 麻 美



私がこの英知大学を受験しようとしたのは昨年七月のことでした。六月頃自分では決まっていたが、とにかく自分の目で外見だけでも確かめてみようと思ひ、七月に入つて見学にきました。初めて見た英知ほどの建物もきれいで、夏休みで合宿中の学生たちもとても礼儀正しいというのが第一の感想でした。そしてチャペルの中に入れてもらい大学の一角にこんな静かで心を休めることができる場所を持つ英知がとても気に入りました。その後私はす

「やっぱり英知に行きたい」と両親に言いました。それから何か月かが過ぎて、やっと憧れの英知大生になれた今、私の心はこれからの大学生活への期待と、下宿生活などの不安が入り混じっています。

四月五日の入学式は、中学と高校の六年間をカトリック校で過した私にとつて一言では言い表せないくらい大きな感動でした。聖歌や聖書の朗読など六年間に何度となく聞いてきました。正直言って高校の卒業式が、大きな式での聖歌、聖書朗読を聞く最後の機会だと思ひました。それが、英知大学の入学式にはそれがありました。このことが、緊張していた私の心を落ちつかせてくれました。それと同時に嬉しくもなりました。

私はカトリック信者ではありませんが、聖歌を歌ったり、聖書の朗読を聞くのが好きです。カトリックの教育精神も好きです。今、希望通り英知大学に入学できた以上、一生懸命頑張りたいと思ひます。

翻訳・出版

沼野元義講師(教養課程・心理学)はこのほどE・キューブラー・ロス著「生命ある限り」を翻訳出版した。これは不治の病に侵された人間の心の葛藤やその家族と友人達の愛に満ちた姿を、写真家マール・ワルショウのレンズを通してとらえた感動のドキュメンタリーで、すべてのさようならまた新しい出会いでもあることや、人間が日々々々をどれだけ一生懸命生きるかということの大切さを教えている。

栄えある叙勲

仏語仏文学科の大西忠雄教授に、昭和五十七年度の勲四等旭日小授章の授与が決定した。教授は来る五月

十三日に東京国立劇場で行われる伝達式に夫人同伴で出席される。

人 事

本学ボランティア研究会では募金の他に使用済切手やベルマークの収集の協力を呼びかけている。これらはすべて寝たきり老人や交通遺児のために役立てられており、同会では昨秋の学園祭の折に協力して下さいた多数の方々感謝している。

退 職

三月三十一日付
講師(英文学科) ジョゼフ・フィナティ
講師(教養課程) 諏訪栄治郎
総務部長 堀内富之助
事務職員(会計課) 阪下 愛子

退 任

教務部長 土田 裕造
学生課長 松本 信愛

新 任

四月一日付
教授(西語西文学科) マリアノ・ペニユエラ
講師(英語英文学科) 芝 垣 哲夫
講師(教職課程) 金 貴 禮
助手(仏語仏文学科) 石野 好一
教務部長 (仏語仏文学科教授) 前田 総助
学生課長 弥左 勉
事務職員(会計課) 藤木 範子

昇 格

教授(神学科) 和田 幹男
教授(英語英文学科) 小林 裕
教授(英語英文学科) 小田 直實
助教授(教養課程) 玉谷 正勝
助教授(神学科) 中野 規文
講師(英語英文学科) 井田 元義
講師(教職課程) 沼野 和滋
講師(教職課程) 奥村 和滋

復 職

教授(神学科) 林 篤